

## 臨床薬理学

責任者・コーディネーター	薬理学講座情報伝達医学分野 平 英一 教授		
担当講座・学科(分野)	薬理学講座 情報伝達医学分野、衛生学公衆衛生学講座、薬学部臨床薬剤学講座		
担当教員	入江 康至 准教授、古濱 和久 非常勤講師、樋口 宗史 非常勤講師、近藤 ゆき子 助教、小栗 重統 非常勤講師、工藤 賢三 教授		
対象学年	4	区分・時間数	講義 15 時間
期間	後期		

### ・学習方針（講義概要等）

薬物治療は現代医療の中で中心的な役割を占めている。治療に有効な薬物を開発し、患者により安全で有効な治療薬を選択するための学問が臨床薬理学である。臨床薬理学は、臨床薬物動態の検討、薬物の開発と臨床治験、そして個人に適した有効治療の確立などがあり、臨床薬物治療学に科学的さらには倫理的側面からもアプローチする学問である。また、臨床薬理学に加え、現在臨床現場で用いられている漢方薬は、長年の経験と知識から漢方医学で確立された治療薬である。

### ・一般目標（GIO）

医師として薬物治療、薬物開発、臨床治験に参加する際の基本的知識を習得する。また、薬物動態の個人差を理解し、各個人向け治療を実践できる知識を習得する。さらに、漢方薬について分類、処方について理解し、治療に必要な知識を習得する。

### ・到達目標（SBO）

- 1 薬物治療の際の科学的根拠と、倫理、法律を説明できる。
- 2 薬物の処方について説明できる。
- 3 薬物の毒性について説明できる。
- 4 薬物の開発について説明できる。
- 5 薬物に対する反応の個人差について説明できる。
- 6 臨床的な薬物動態について説明できる。
- 7 薬物間の相互作用について説明できる。
- 8 漢方薬について説明できる。

・講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/20	金	1	情報伝達医学分野	入江 康至 准教授	臨床薬理総論
9/20	金	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	開発、臨床試験
9/24	火	1	情報伝達医学分野	古濱 和久 非常勤講師	医薬品毒性学
9/24	火	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬物動態、代謝
10/1	火	1	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 助教	薬物相互作用
10/1	火	2	情報伝達医学分野	樋口 宗史 非常勤講師	肥満
10/8	火	1	情報伝達医学分野	入江 康至 准教授	遺伝薬理学・個人差
10/8	火	2	情報伝達医学分野	平 英一 教授	処方
10/15	火	1	衛生学公衆衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	現代医学における漢方の役割
10/15	火	2	衛生学公衆衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	漢方治療の症例紹介

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	臨床薬理学テキスト 改訂2版	植松俊彦、岩本喜久生 編	南江堂	2001
教	専門医のための漢方医学テキスト	日本東洋医学会学術教育委員会 編	南江堂	2010
参	ローレンス臨床薬理学(原著9版)	P. N. Bennett 他著、飯島俊彦 他訳	西村書店	2006
参	臨床薬物動態学：臨床薬理学・薬物療法の基礎として 改訂4版	加藤隆一 著	南江堂	2009
参	薬の相互作用としくみ9版	杉山正康 編著	医歯薬出版	2010

・成績評価方法

統合試験による。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

【講義の詳細】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/20	金	1	情報伝達医学分野	入江 康至 准教授	<p>臨床薬理総論</p> <p>臨床薬理学の総論を、EBM(Evidence Based Medicine)、服薬コンプライアンスなどを中心に学ぶ。</p> <p>【キーワード】</p> <p>ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、プラセボ</p> <p>【モデル・コアカリキュラム】</p> <p>B-(8)-6), F2(1)-16)</p>
9/20	金	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	<p>開発、臨床試験</p> <p>新薬が開発されるまでの過程と、医薬品のヒトにおける有効性・安全性を確保するための試験について学ぶ。</p> <p>【キーワード】</p> <p>臨床試験、治験</p> <p>【モデル・コアカリキュラム】</p> <p>B-(8)-1), 2), 6)</p>
9/24	火	1	情報伝達医学分野	古濱 和久 非常勤講師	<p>医薬品毒性学</p> <p>医薬品には必ず毒性と副作用がある。毒性学の総論を理解し、特に医薬品の毒性について理解を深める。また、薬物の品質管理システムについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】</p> <p>薬害、 GCP、</p>

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
					【モデル・コアカリキュラム】 B-(8)-6)
9/24	火	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬物動態、代謝  的確な薬物療法を実施するための基礎として、薬物の生体内での動き（吸収・分布・代謝・排泄）について学ぶ。  【キーワード】  生体内薬物動態、薬物代謝、吸収、分布、排泄  【モデル・コアカリキュラム】 C3-(4)-02
10/1	火	1	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 助教	薬物相互作用  薬物間の相互作用は服薬の際の大きな注意点の一つである。薬物間の相互作用の総論に加え、個別例についても学ぶ。  【キーワード】  薬物相互作用  【モデル・コアカリキュラム】 F2(1)-14)
10/1	火	2	情報伝達医学分野	樋口 宗史 非常勤講師	肥満  現代病である肥満をベースに、肥満関連ペプチドについて学ぶ。  【キーワード】  神経ペプチド、肥満関連ホルモン

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/8	火	1	情報伝達医学分野	入江 康至 准教授	<p>遺伝薬理学・個人差</p> <p>薬理作用の個人差と薬物投与設計について、遺伝薬理学、年齢（小児期、老年期）・妊娠や病態（肝障害・腎障害）に合わせた投与設計を中心に学ぶ。</p> <p>【キーワード】</p> <p>個人化医療、薬物治療に影響を及ぼす因子</p> <p>【モデル・コアカリキュラム】</p> <p>F2(1)-13)</p>
10/8	火	2	情報伝達医学分野	平 英一 教授	<p>処方</p> <p>薬物を投与する際には処方箋が必要である。薬物を処方する際の処方箋の書き方を、剤形別に基本的事項を学ぶ。</p> <p>【キーワード】</p> <p>処方箋、薬事法、医事法</p> <p>【モデル・コアカリキュラム】</p> <p>F2(1)-15), B-(8)-6)</p>
10/15	火	1	衛生学公衆衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	<p>現代医学における漢方の役割</p> <p>東洋医学の役割は西洋医学を補完することにある。その中で漢方医学は現代医学の狭間を埋めることができる医学分野である。しかしそれらを言葉としては理解できるものの、実感し難いことも事実である。そこで本講座では、漢方医学が実際に臨床の現場でどのように必要性に迫られ、処方されていくのかを実例を挙げながら紹介する。</p>

					<p>【キーワード】</p> <p>漢方の薬理、漢方薬の特徴</p> <p>【モデル・コアカリキュラム】</p> <p>F2(1)-17)</p>
月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/15	火	2	衛生学公衆衛生学 講座	小栗 重統 非常 勤講師	<p>漢方治療の症例紹介</p> <p>漢方医学は西洋医学とは異なる診断方法が採用されている。医師は漢方理論により問診、四診を行い方証相対あるいは弁証し方剤を決定することを求められる。それ故西洋医学的に診断が不明でも方剤が決定することもある。本講座は興味深くかつ典型的な漢方症例を紹介することで、諸君にとって漢方が身近なものになってもらうのが目的である。</p> <p>【キーワード】</p> <p>漢方の診断と理論</p> <p>【モデル・コアカリキュラム】</p> <p>F2(1)-17)</p>